

第5回ベスト・インスペクター賞

広島管財(株)・白須裕毅氏が大賞に
北海道クリーン・システム(株)・田村充規氏は特別賞

業務を自主的に点検し、継続的な改善を通してお客様に高い品質を提供するスキルをもつ品質インスペクター（建築物清掃管理評価資格者）。日ごろの成果を発表し、優れた取り組みを表彰するベスト・インスペクター賞。最も優れた発表に与えられる大賞に、広島管財(株)の白須裕毅氏が審査員満場一致で選ばれた。

今回の発表会には、例年より多い11名のインスペクターがエントリー。書類選考と現地調査を経て、6名が本選に臨んだ。6名の発表はどれもすばらしく、発表会が始まって10年近くたち、インスペクター制度が根つき、裾野が広がったことの証しと感じた。

独自性を感じる発表

資格者が5,000人を超えた現在、品質管理体制の確立が進み、お客様への周知も広がった。その結果インスペクターのスキルも上がり、企業ごとの独自性も生まれているものと思われる。

とりわけ大賞を受賞した広島管財の取り組みは独創的だ。

例えば、A3用紙1枚にまとめたインスペクション結果シート。

シートの簡易版を作ることで、評価内容と改善指示事項が現場にもわかりやすいよう工夫。誰もが共通した資料に目を通せる点が、審査員から好評だった。

指摘事項の改善を通して、同社がめざす「衛生管理清掃」の徹底を進めている。そのためには、何よりも教育が重要だとして、従事者が親しみのもてるよう、さまざまな工夫を凝らした研修を実施している。

実技研修、現場研修はもちろん、視覚で学ぶ工夫や他現場スタッフとのコミュニケーション促進などとともに、社長自らが研修に出席したり、感謝の気持ちを給与袋に入れたり、経営理念の浸透に努める様子も紹介された（24ページに発表内容を掲載）。

品質の背景に教育あり！

特別賞の北海道クリーン・システムでも、社内認定の清掃技能士制度を設け、技能研修会やマナー研修会の開催、大型資機材操作責任者制度など、品質向上に向けた多様な取り組みを行っていることが報告された（次号に掲載予定）。

インスペクションは、単に点数づけをして作業指示するだけでなく、作業を支える教育が欠かせない。両社の受賞は奇しくもその重要性を示したといえる。

6社中、最も規模の小さい広島管財が大賞を受賞したことは、品質管理に取り組む多くの企業の励みになるのではないかと。

第5回ベスト・インスペクター賞結果

賞	氏名	所属企業	担当建築物
大賞	白須裕毅	広島管財(株)	広島バスセンター
特別賞	田村充規	北海道クリーン・システム(株)	JR札幌病院
入賞	川上正人	広島県ビルメンテナンス共同組合 (太平ビルサービス(株)広島支店)	中小企業大学広島校
	手塚博康	エス・シー・ビルサービス(株)	住友商事竹橋ビル
	林田浩康	パナソニックESファシリティ マネジメント(株)	パナソニック・エコソリューションズ社第二別館
	山上 徹	東京美装北海道(株)	新札幌第一生命ビルディング



白須裕毅氏(左)とPC操作を担当した寺本順氏(右)